

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述(70点)・論述(30点)

分量・難易(前年比較) 分量(減少・変化なし・増加) 難易(易化・変化なし・難化)

大問4。Ⅰ～Ⅲは記述(小問数70)。Ⅳは200字の論述2題。

出題の特徴

時代別では、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・戦後」で四分割の配点は例年と同じ。戦後は高度成長期までが問われた。

分野別では、外交からの出題が多く、文化からの出題が少なめであるが、全体的にバランス良く出題されている。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
Ⅰ	記述 <史料>	古代・中世・近代 政治・外交	A天徳4(960)年の内裏焼亡(『扶桑略記』) B源頼朝の征夷大將軍任命(『三槐荒涼拔書要』) C山県有朋から大山巖への書簡(『公爵山県有朋伝』) すべて未見史料からの出題。史料の内容や設問文を慎重に読み解いて解答したい。(11)は平氏が朝敵として滅ぼされたことを想起したい。(3)「後撰和歌集」は難しい。(7)「軍事貴族」も難しいが、本学では要注意の用語。	標準
Ⅱ	記述 (短文空欄 補充)	原始～戦後 総合	①日本列島における土器の製作開始 ②白村江の戦い後の国防強化 ③古代の宮殿 ④平安貴族と中国文化 ⑤室町時代の徳政一揆 ⑥室町時代の兵庫 ⑦樺太千島交換条約と琉球処分 ⑧明治期の欧化政策とそれへの反発 ⑨アジア太平洋戦争 ⑩高度成長期における交通網の整備と公害問題 イは「1万6千年前頃」「寒冷な気候」に着目して「完新(世)」ではないと判断したい。サ「兵庫北関入船納帳」、ソ「東京音楽学校」などがやや難しいが、その他は基本事項からの出題が多いので高得点を狙いたい。	標準
Ⅲ	記述 (前提文)	古代・近世・近代 政治・文化・外交	A古代の近江 B江戸時代の歴史書 Cヴェルサイユ会議とワシントン会議 (3)庸が京・畿内で全額免除されていたという知識は詳細で難しい。(4)「藤原仲麻呂」ではなく「恵美押勝」と記載されていることに着目して「淳仁天皇」と解答したい。(10)設問文から証人制の廃止と殉死の禁止を読み取って「徳川家綱」と判断したい。上記以外は標準レベルなので取りこぼしに気を付けたい。	標準
Ⅳ	論述	中世・近世 社会経済・外交	(1)鎌倉時代から安土桃山時代までの銭貨流通 輸入銭の流通と貨幣経済の進展、私鑄銭の横行と撰銭令の発令などを軸に論を構成したい。なお、豊臣期に鑄造された天正大判は金貨であり、本問のテーマである銭貨(銅貨)と区別して論じたい。 (2)1610年代から1640年代の幕府のキリシタン政策 貿易奨励・キリスト教黙認から貿易統制・禁教への転換、鎖国体制の確立と禁教策の強化というように、幕府のキリシタン政策と対外政策とを連動させつつ論じたい。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準に判断しています。

- ① I～Ⅲの記述式 70 点、Ⅳの論述 30 点の配点を念頭に置いた学習計画を立てることが大切である。
- ② I～Ⅲの記述式で高得点を確保するために、教科書を一冊、欄外の脚注なども含めてマスターすること。
- ③Ⅳの論述問題は対策の有無によって得点差がつくので、学習対策を早期に立て、できる限り添削指導を受けること。
- ④史料問題は未見史料もみられるが、市販の史料集を併用しつつ基本史料を中心にした学習を進めて史料に親しんでおきたい。
- ⑤京大独特のひねりをきかせた設問対策としては、夏期・冬期講習および京大即応オープン・河合出版『入試攻略問題集 京都大学 地理・歴史』などの積極的な利用を薦めたい。